

士別市ボランティアセンターだより ふれあい

●発行●
 士別市ボランティアセンター
 士別市東5条3丁目
 サポートセンターしべつ
 士別市社会福祉協議会内
 TEL 22-3012
 FAX 22-3019

で愛 ふれ愛 かたり愛
ふれあい広場2018

In しべつpart35
 ～あふれる笑顔 みんなが主役～

7月7日(土)～8日(日)

会場 士別市総合体育館・駐車場

ふれあい広場

35回記念年企画

・みんなで人文字を作ろう！
 ・記録にチャレンジ！体験コーナー

ふれあいの店



うどん・そば・おでん
 焼きそば・手打ちそば
 かき氷・おこのみ焼
 福祉施設作品販売 ほか

体験の広場



アダブテッドスポーツ・
 盲導犬体験(8日のみ)・
 おもしろスポーツ科学館・
 収集ボランティア ほか

学童生徒ボランティア



各学校ボランティア活動展
 お祭り広場・駄菓子販売・
 ゲームコーナー ほか

ふれあいステージ



幼稚園鼓笛隊・吹奏楽・
 児童館演技・よっちょれ
 ほか

スケジュール

7月7日(土)	12:00～16:00
開会式	13:00～13:30
各イベント	12:00～16:00
ふれあいの夕べ	17:30～19:00
7月8日(日)	10:00～15:00
各イベント	10:10～14:30
閉会式	14:30～15:00

●ガイドヘルプボランティアを行います！

障がいや高齢のため、移動が困難だけれど、会場に行きたい...という方のために、送迎と場内ガイドヘルプを行います。ぜひ、事務局までご連絡ください。

●身障者車輛運転装置無料点検

7月8日(日) 10:00～14:00に行います。
 お気軽にお越し下さい！



申し込み・お問い合わせ

ふれあい広場実行委員会 事務局 士別市東5条3丁目 サポートセンターしべつ

TEL: 22-3012 FAX: 22-3019 E-mail: shibetsu-shakyo3@bz04.plala.or.jp

**ふれあい広場ステージ
 背景画色ぬり 参加者募集!!**

*とき **6月17日(日)** 12:00～15:00

*ところ 士別市総合体育館口ビー

144分割した1枚に色を塗っていただき、大きな一枚の絵が完成します。申しこみや道具は必要ありません。お友だちやご家族といっしょに、ぜひ、来てください！
 ぬっていた方には、



△昨年度の様子

ふれあい広場で参加賞がもらえます

ボランティアセンター新任運営委員の紹介



伊藤 由香さん

士別に来たのは2年前。知り合いほぼゼロ。色々な縁に恵まれ、ふれあい広場などにボランティアとして参加させていただき、ひとり、ふたりと人のつながりができました。

この4月からは、ボランティアセンター運営委員として、士別の先輩方と一緒に活動しています！知らないことがたくさんあり、新たな出会いを楽しみつ

つ元気に活動していきたいと思います！どうぞよろしくお願ひいたします。

4月 土曜ボランティア学習塾「さぼてん」



今年度の第1回目の土曜ボランティア学習塾の開校式が4月28日に行われました。

当日は、高校生9名、中学生1名、教員5名が参加。初対面ということもあり身近にあるものを色や果物に例えてコミュニケーションをとる簡単なゲームなどで「アイスブレイク」を行い、自己紹介。笑いも多くみられ緊張を解さほぐされた後に話し合いを行いました。

まず初めに、土曜ボランティア学習塾「さぼてん」の趣旨説明し、代表を決めました。代表は土別翔雲高等学校の『岡本 梨穂』さん。副代表は、土別土別東高等学校の『伊藤 巧』さんに決定しました。

今年度の活動としては、人とふれあうボランティア活動（児童や障がい者との交流）、ふれあい広場やつくも園青空祭などのイベントのお手伝いを計画。また、年度途中でも、実施したい内容が出てきたら、検討していくことにしました。

普段の生活では経験できない事や、人とのつながり、そして、新たな仲間との活動に興味がある方は、塾生を随時募集しているので事務局までご連絡を！



平成30年度 土別市福祉教育懇談会開催



6月5日（火）土別市教育委員会 藤田 泰昭氏を講師に招き、『ボランティアって何だろう？』～身近な『共生』から考える～と題し、先生方を対象とした福祉教育懇談会を実施しました。当日出席された教職員の中には藤田さんの先輩もおり、「私が講義をするなんて…とても話しぶいい」と緊張された様子でした。

ボランティアって何だろう？ボランティアを通して子どもたちに何を感じてもらえるか？また先生たちもどう伝えるか？ボランティアには必ず相手がいて、その相手の状況・価値観・立場を理解しないと「親切」と思ってボランティアしていることが相手にとっては「お節介」になってしまうこともあるのではないかと。

その例として「コンセンサスを学ぶ」というグループワークを実施。砂漠に不時着し遭難したときに12個の品物（「懐中電灯」「水」「周辺の地図」「雨具」など）が残され、その中から、生き残るために必要なものの順位を決めるといふもの。どれも必要そうに見えるが、人によって順位が違いそれをグループで話し合うと色々な考え方が見えてくる。話し合いの中で状況、価値観について「なるほど」と納得する部分がありました。

また、身近な共生として、土別市地域活動支援センターに通われている、伊藤さん、川上さんから、「障がいに関わる生きづらさや周りとの関わりで苦労があるが、周りの方に気にかけてもらいながら、向き合って現在生活している」ことなどを聴きました。

最後に藤田さんから、「このように、先生方同士や子どもたちにも、お互いを『気かけられる』環境づくりを行ってほしい」とお話がありました。

福祉教育懇談会

